

# 2020 年度 報告書

在宅死を可能にする基盤づくりの発展研究

在宅ケア促進プログラムの展開と検証

わが家の音がきこえる

科学研究費助成 研究チーム  
北海道ホームヘルスケア研究会（3HR）

スーディ 神崎 和代 代表

（2018～2021 年度学術研究助成基金助成金）



## 目 次

1. はじめに	1
2. 在宅療養・看取り啓発を目的とした動画制作と試写会について	2
3. 啓発活動について	3
4. 2020年度に予定していた市民講座の状況報告	16
5. 2020年度の学会活動	17
6. 2021年度の計画と展望	18
7. 謝辞	19
8. 祈りの頁	20

資料 1) 夕張市 試写会ポスター

2) 北海道新聞 夕張版地方版 (夕張市試写会)

3) ベストナース記事 (札幌市試写会)

4) 日本在宅ケア学会 学会発表 抄録

5) 日本在宅ケア学会 市民公開講座 抄録 / ポスター

6) 記録写真

## 1. はじめに

2019 年末に国内で散見されていた COVID-19 による感染症が収束しないまま 2020 年を迎え、2020 年春から想定外の感染拡大が日本のみならず世界中で起こりました。それから 1 年を経ても収束しないままに 2 度目の春を迎えました。

COVID-19 は社会的、経済的、そして、教育現場や本研究活動にも大きな影響をいまだに与えています。

2020 年度は国の感染予防対策に重きを置いた方針に沿って、研究計画の再調整を必要に直面しました。そこで、次のような調整をしました：①関東圏 2 か所で 8 月に開催を予定していた市民を対象とした調査と公開講座の 1 年延期を決断 ②本来、予定していた関西・九州地域でのプログラム展開と評価を目的とした公開講座開催に向けての事前調査も 1 年延期を決定 ③2019 年度末に予定していた動画撮影の時期を 2020 年度 8 月に延期と計画を修正しました。

動画撮影時期は、地域の感染状況を分析しながら協力者の健康第一を念頭に 8 月 10 日によく実施できました。撮影前の 1-2 週間は最新の厚生労働省及び文部科学省（研究者用）の感染予防ガイドラインに基づいて準備を整え、協力者と撮影参加者の感染予防と安全の担保をするための動作確認を繰り返し行いました。結果、関係者全員が体調を崩すこともなく現在に至るまで健やかに過ごしておられます。

動画撮影後の複数回に及ぶ編集作業を約 6 か月遅れで 11 月末に完了して DVD 版も完成しました。協力者の方々が居住する夕張市と札幌市において試写会を 2020 年度内に開催し、想定以上に多くの人たちが参加をして下さり、動画に対するアンケートを用いての評価も実施しました。

研究者らの想定よりも COVID-19 感染拡大が長く続いており、ワクチン接種に期待が寄せられる中、2020 年度は、「今、出来ることを工夫しながら、完全停止をしないで進めていく」合言葉に活動をしてきました。

全国学会での研究発表と市民公開講座抄録も採択になりましたが、感染の影響を受けて紙面上での抄録掲載となり、研究結果を公開するひとつの有効な場になったと考えています。また、HP の充実も「今、出来ることをする」の一例です。HP の充実により、対面で作業や会議参加が困難な臨床現場の仲間たちとの最新情報共有の場として機能するようになってきており、研究の進捗状況の公表も可能になりました。

2020 年度は多くの制限がある中でも協力を惜しなかつた夕張市民の力、札幌市内で活動している在宅医療や訪問看護の専門職者の方々の負担を厭わない支援が頼もしく、そして、チームだからこそ出来るという実感を強く感じた年でありました。

3HR 代表

2018-2021 学術研究助成基金助成金による研究 代表

スーディ 神崎和代

## 2. 在宅療養・看取り啓発を目的とした動画制作と完成試写会について

「その人が望むのであれば、在宅での療養や看取りを可能にする論拠に基づいた支援」を目的に、動画制作の準備を進めてきた。本来の計画では2019年度内に完成して2020年度に小規模自治体へのDVD配布、及び、地域でのプログラム展開を予定していたが、COVID-19の影響を受けて約6か月の遅延を避けられない状況となった。幸い、道内の感染状況が下火になった2020年8月を好機と判断し、撮影を実施した。

在宅療養・看取りを可能にするための正確な情報を得るために、市民ボランティアが実際に在宅療養・看取りを支える現場で働いている専門職者に質問する構成にした動画である。市民も専門職者もボランティアで参加して下さり、シナリオの練習を数か月に及び個人や有志グループで撮影に備えてして下さっていた。質問者役を担った市民の方たちはシナリオに沿いつつも、自然に「本当にこの情報が欲しいのです」というその方の真摯な願いや思いが表れてきて、企画した研究者らの胸打つ場面が少なからずあった。「真に情報を必要とする立場の人たち」が協力して下さったからこそ、それが画像に表現されたのだと感じている。

撮影終了から約4か月間は専門家の手を借りて編集作業を重ねた。テロップ用の文言作成と編集・文字の色や大きさと背景の検討においては、75歳前後の人の視力の変化などを意識した。11月末の編集作業終了と共に小規模自治体への配布用のDVD版制作を完了した。DVD版完成を受けて、第一回目の試写会を夕張市内で開催した。地元市民が動画制作に協力していることもあり想定以上の市民参加があり、動画視聴前後でアンケートにも回答してもらうことで動画の評価を実施した。同時に意見交換の場でも多くの意見を頂くことが出来た。特に2021年1月に開催した札幌会場での試写会においては異分野の専門家から貴重なコメントや意見を得ることが出来た。これらの評価内容は学会などでの公表を予定している。

### 動画DVD版の配布計画

自治体へのDVD配布に添付する動画視聴前後での評価アンケート作成、DVDを配布する小規模自治体（道内人口1万人以下の自治体全124か所-2021年3月末時点、北海道を除く全国を東北・関東・中部・四国・九州地域から人口1万人以下の小規模自治体76か所を一定ルールに沿って選ぶ）合計200か所のリストアップ作業を3月末に完了した。100枚は3HRのHPを通して、希望者に貸し出すために活用する予定している。加えて、看護協会のように多くの看護職者に繋がる組織・機関にも紹介することを検討している。

### YouTubeでの発信

2021年度は、主に次の二つの理由でYouTubeによる発信を計画している：①出来るだけ多くの人たちに情報を届けること ②動画制作には直接関わっていないが、関心を持って応援をしてくれている組織や個人の評価を受けること、を目的に2020年度末にYouTubeによる発信に向けて準備を開始した。

### 3. 啓発活動について

在宅療養・看取りを可能にするために～市民がプロにきく～  
～ 動画完成記念試写会（夕張）と意見交換会



#### 1. 目的・対象・日時・場所

##### 1) 目的

健康課題を持ちながらも最期まで住み慣れた地域・在宅で療養するために必要なことを、市民が専門職（医師、看護師、介護支援専門員）に尋ねて学ぶDVDを作成した。はじめに、動画に出演してくださった市民を含め、夕張市で試写会を行い、動画の感想を得た。

##### 2) 対象

一般市民 36名

##### 3) 日時

2020年11月7日（土）13：00～14：50

##### 4) 場所

夕張市沼の沢農業研修センター（夕張市沼の沢827番地4）

#### 2. プログラム概要

##### ・開会のあいさつ

スーディ K. 和代氏（医療創生大学教授、札幌市立大学名誉教授）

##### ・市民代表者のあいさつ

矢口 孝行氏

##### ・動画上映 意見交換

##### ・ボランティア代表の閉会のあいさつ

及川 憲仁

### 3. 動画の効果と評価

動画により、在宅療養・看取りについて聞きたい内容の理解や疑問の解消が進み、正しい情報の獲得に向かったといえる。しかし、自分の住んでいる地域で実際に多くの人が最期まで過ごせるという認識が変わったのは、一部の人にとどまった。実際の体験談（遺族や、療養している当事者、あるいはサービス提供者からの）を組み合わせること、自分の現実的な将来計画立案に取り組むことが必要ではないかと考える。

## 動画視聴会 前後のアンケート結果（夕張） 2020年11月7日

動画視聴の理由（複数回答）

夕張

N=36 %

知り合いに誘われた	26	72.2%
内容に興味があった	15	41.7%
人に伝えたいと思った	13	36.1%

自分の地域では息をひきとるまで自宅で過ごせると思うか？

	視聴前 (%)	
多くの人が過ごせると思う	1	7 (25)
だいたいの人が過ごせると思う	6	
あまり過ごせないとと思う	21	21 (75)
全く過ごせる人はいないとと思う	0	
無回答	8	

	視聴後 (%)	
	4	11 (37.2)
	7	
	21	21 (62.8)
	0	
	4	

N=36

	視聴前				視聴後			
	思わない	あまり思わない	まあ思う	そう思う	思わない	あまり思わない	まあ思う	そう思う
5. 相談場所がどこなのか知っている (わかった)	1	3	11	9	3	0	8	24
		4		20		3		32
		11.1		55.6		8.3		88.9
6. 医師役割を知っている (わかった)	0	4	10	10	0	0	7	26
		4		20		0		33
		11.1		55.6		0		91.7
7. 訪問看護役割を知っている (わかった)	0	4	11	10	0	0	8	24
		4		21		0		32
		11.1		58.3		0		88.9
8. CM役割を知っている (わかった)	0	4	7	11	0	1	8	26
		4		18		1		34
		11.1		50		2.8		94.4
9. 在宅看取り経過を知っている (わかった)	0	5	10	8	0	0	9	25
		5		18		0		34
		13.9		50		0		94.4
10. 看取り法的ルールを知っている	1	6	8	7	0	4	12	18
		7		15		4		30
		19.4		41.7		11.1		83.3
11. 最後の過ごし方考えようと思う	0	3	7	12	0	0	8	27
		3		19		0		35
		19.4		52.8		0		97.2
12. 事前指示書を書きたい	0	3	8	11	0	1	14	18
		3		19		1		32
		19.4		52.8		2.8		88.9
13. 何処で過ごしたいか家族に伝えたい	0	3	6	14	0	0	9	24
		3		20		0		33
		19.4		55.6		0		91.7

	視聴前				視聴後			
	思わない	あまり思わない	まあ思う	そう思う	思わない	あまり思わない	まあ思う	そう思う
14. 何処で過ごしたいか医療者に伝えたい	0	4	4	13	0	2	13	17
		4		17		2		30
	%		11.1		47.2		5.6	83.3
15. 今の市町村で過ごしたい	1	9	3	10	2	5	9	18
		10		13		7		27
	%		27.8		36.1		19.4	75
16. 最期まで自宅で過ごしたい	2	9	5	7	2	9	11	9
		11		12		11		20
	%		30.6		33.3		30.6	55.6
17. 訪問診療を使いたい	0	9	6	8	1	5	12	16
		9		14		6		28
	%		25		38.9		16.7	77.8
18. 訪問看護を使いたい	0	5	9	9	2	3	13	15
		5		18		5		28
	%		13.9		50		13.9	77.8
19. 在宅看取りは家族に良い体験	1	7	7	7	4	8	9	13
		8		14		12		22
	%		22.2		38.9		33.3	61.1
20. 家族の負担が増えるので在宅は希望しない	3	9	5	4	5	7	12	8
		12		9		12		20
	%		33.3		25		33.3	55.6
21. 望めば最期まで一人でも自宅で過ごせる	1	4	10	6	2	5	10	14
		5		16		7		24
	%		13.9		44.4		19.4	66.7

自分の地域では息をひきとるまで自宅で過ごせると思うか？

視聴前	視聴後
多くの人が過ごせると思う	多くの人が過ごせると思う
だいたいの人が過ごせると思う	だいたいの人が過ごせると思う
あまり過ごせないとと思う	あまり過ごせないとと思う
全く過ごせる人はいないとと思う	全く過ごせる人はいないとと思う

(その他 前または後が無記載10)  
 変化なし 18名  
 多く・だいたいが過ごせるに変化 7名  
 あまり過ごせないとに変化 1名

## 動画を視聴した感想（自由記載）

- ・質問の内容もわかりやすい、また、質問に対する答え方もわかりやすく、勉強になりました。
- ・動画を見せていただきありがとうございました。本当によく分かりました。種々不安に思っていたことが分かり、先が明るくなった気持ちです。
- ・聞きたいことが聞けて良かったと思います。参考になりました。ありがとうございます。今まで、分かっていた知識が少し間違っていたこともあり。今回改めて大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・あまり最後のことを考えていなかったもので、今日動画を見ることにより、きちんと考えなくてはいけないと思いました。
- ・前もって考えておくべきかなあ〜と思いましたが、よく考え方は分かりました。考えておかなければならないことが多く、とりあえず主人と話し合いたい。最後段階に向けて。
- ・少しでも自分の考えを確かめておきたいから。
- ・なるべく自分のことが出来る様、頑張って生きていこうと思っておりますが心配は沢山あります。ぼけないように気を付けたいですね。色々なことがお手伝いしていただけることを知り、少し安心しました。私は義母を8年間在宅で家で最後を見送りすることが出来ました。
- ・自宅が特別個室であるという言葉が、ぐっときました。自宅で過ごしてほしい。
- ・家族が遠方に居る場合の看護について考えていましたが、色々参考になりました。
- ・話を聞いてみて、なるほどと思ったが、いざ自分のことになると、どうでしょうか。穏やかに死を待ちたいと思う。
- ・今日の講座のように、とは思いますが、なかなか難しいと思います。(個人的な意見です。)
- ・最後まで自宅で過ごしたいと思う心と、迷惑をかけたくない気持ちが難しいですね。
- ・夕張市は一人暮らしの方が多いので、自分が最期を自宅でも思っても、かなわない方がいると思います。

## 在宅療養を可能にするための在宅ケア基盤づくり

### に関するアンケート

動画視聴

記入日

年 月 日

著作者：3HR アンケート内容の変更・転写・転用は固くお断りします。



北海道から全国へ 在宅ケアを考える 3HR Hokkaido Home Healthcare

北海道ホームヘルスケア研究会

番号

本日の動画視聴会にご参加いただいた理由について「はい」「いいえ」、  
どちらかに○をつけてください。

質問 番号	質問項目		
問1	知り合いや身内に誘われた	はい	いいえ
問2	内容に興味があった	はい	いいえ
問3	人に伝えたいと思った	はい	いいえ

問4. あなたの今のお考えをお答えください。

あなたの地域（市・区・町・村）では、希望した人は、息をひきとるまで自宅で  
過ごせると思えますか？ 当てはまる番号に1つ○をつけてください。

<p>1. 多くの人が過ごせると思う</p> <p>2. だいたいの人が過ごせると思う</p> <p>3. あまり過ごせる人はいないと思う</p> <p>4. 全く過ごせる人はいないと思う</p>
--

\* 人生の最終段階（終末期と同じ意味）を在宅で過ごすことについて、今のあなたのお考えをお答えください。自分の考えにあう1~4の数字に○をつけてください。

質問 番号	質問項目	そう 思う	まあ 思う	思わ ない あまり	思わ ない
問5	わたしが人生の最終段階を在宅で過ごしたい場合に、 <b>相談する場所</b> がどこなのか知っている	4	3	2	1
問6	わたしが人生の最終段階を在宅で過ごしたい場合の、 <b>医師</b> の役割を知っている	4	3	2	1
問7	わたしが人生の最終段階を在宅で過ごしたい場合の、 <b>訪問看護師</b> の役割を知っている	4	3	2	1
問8	わたしが人生の最終段階を在宅で過ごしたい場合の、 <b>ケアマネジャー</b> の役割を知っている	4	3	2	1

質問番号	質問項目	そう思う	まあ思う	思わない あまり	思わない
問 9	在宅で看取りをする場合の <b>経過</b> を知っている	4	3	2	1
問 10	在宅で看取りをする場合の <b>法的ルール</b> を知っている	4	3	2	1
問 11	わたしは、自分の人生の最終段階の過ごし方や医療について <b>考えている</b>	4	3	2	1
問 12	わたしが人生の最終段階になった時に受けた <b>医療</b> については、 <b>事前指示書</b> に書いている	4	3	2	1
問 13	わたしが人生の最終段階になった時にどこで過ごしたいかについて、 <b>家族</b> に希望を伝えている	4	3	2	1
問 14	わたしが人生の最終段階になった時にどこで過ごしたいかについて、 <b>医療者</b> に希望を伝えている	4	3	2	1
問 15	わたしは人生の最終段階になっても、 <b>今住んでいる市町村</b> 内で過ごしたいと考えている	4	3	2	1
問 16	わたしは人生の最終段階になっても <b>自宅</b> で過ごしたいと考えている	4	3	2	1
問 17	わたしは人生の最終段階になって自宅で過ごすときに、 <b>訪問診療</b> を使いたいと思う	4	3	2	1
問 18	わたしは人生の最終段階になって自宅で過ごすときに、 <b>訪問看護</b> を使いたいと思う	4	3	2	1
問 19	在宅での看取りは <b>家族にとってもよい体験</b> になると思う	4	3	2	1
問 20	<b>家族の負担</b> が増える理由から、わたしは在宅での看取りは希望しない	4	3	2	1
問 21	<b>一人暮らし</b> でも、わたしが希望すれば在宅で最期まで過ごせると思う	4	3	2	1

以下の質問について該当する箇所に○をつけてください。また、( )内はご記入ください。

- |    |   |
|----|---|
| 1. | 性別：男性・女性  |
| 2. | 年代：20歳未満・20歳代・30歳代・40歳代・50歳代・60歳代・70歳代・80歳代・90歳以上 |
| 3. | 就業について<br>・就業 (内容 )<br>・退職<br>・その他                |

## 在宅療養を可能にするための在宅ケア基盤づくり

### に関するアンケート

動画視聴  後

記入日

年 月 日

著作者：3HR アンケート内容の変更・転写・転用は固くお断りします。



北海道から全国へ 在宅ケアを考える 3HR Hokkaido Home Healthcare

北海道ホームヘルスケア研究会

番号

動画を視聴しての感想をお答えください。

動画は参考になりましたか？ご自分の考えにあう1～4の数字に○をつけてください。

質問 番号	質問項目	とても参考 になった	まあ参考 になった	あまり参考 になかった	全く参考 になかった
問1	市民が訪問看護師に聞く	4	3	2	1
問2	市民が医師に聞く	4	3	2	1
問3	市民がケアマネジャーに聞く	4	3	2	1

問4. あなたの今のお考えをお答えください。

あなたの地域（市・区・町・村）では、希望した人は、息をひきとるまで自宅で過ごせると思いますか？ 当てはまる番号に1つ○をつけてください。

<p>1. 多くの人が過ごせると思う</p> <p>2. だいたいの人が過ごせると思う</p> <p>3. あまり過ごせる人はいないと思う</p> <p>4. 全く過ごせる人はいないと思う</p>
--

\* 人生の最終段階（終末期と同じ意味）を在宅で過ごすことについて、今のおあなたのお考えをお答えください。自分の考えにあう1～4の数字に○をつけてください。

質問 番号	質問項目	そう 思う	まあ 思う	思わ ない あまり	思わ ない
問5	わたしが人生の最終段階を在宅で過ごしたい場合に、 <b>相談する場所</b> がどこなのかわかった	4	3	2	1
問6	わたしが人生の最終段階を在宅で過ごしたい場合の、 <b>医師</b> の役割がわかった	4	3	2	1
問7	わたしが人生の最終段階を在宅で過ごしたい場合の、 <b>訪問看護師</b> の役割がわかった	4	3	2	1

質問番号	質問項目	そう思う	まあ思う	思わない あまり	思わない
問8	わたしが人生の最終段階を在宅で過ごしたい場合の、 <b>ケアマネジャー</b> の役割がわかった	4	3	2	1
問9	在宅で看取りをする場合の <b>経過</b> がわかった	4	3	2	1
問10	在宅で看取りをする場合の <b>法的ルール</b> がわかった	4	3	2	1
問11	わたしは、自分の人生の最終段階の過ごし方や医療について <b>考え</b> ようと思う	4	3	2	1
問12	わたしが人生の最終段階になった時に受けた <b>医療</b> については、 <b>事前指示書</b> に書いておきたいと思う	4	3	2	1
問13	わたしが人生の最終段階になった時にどこで過ごしたいかについて、 <b>家族</b> に希望を伝えたいと思う	4	3	2	1
問14	わたしが人生の最終段階になった時にどこで過ごしたいかについて、 <b>医療者</b> に希望を伝えたいと思う	4	3	2	1
問15	わたしは人生の最終段階になっても、 <b>今住んでいる市町村</b> 内で過ごしたいと思う	4	3	2	1
問16	わたしは人生の最終段階になっても <b>自宅</b> で過ごしたいと思う	4	3	2	1
問17	わたしは人生の最終段階になって自宅ですぐに、 <b>訪問診療</b> を使いたいと思う	4	3	2	1
問18	わたしは人生の最終段階になって自宅ですぐに、 <b>訪問看護</b> を使いたいと思う	4	3	2	1
問19	在宅での看取りは <b>家族にとってもよい体験</b> になる	4	3	2	1
問20	<b>家族の負担</b> が増える理由から、わたしは在宅での看取りは希望しない	4	3	2	1
問21	<b>一人暮らし</b> でも、わたしが希望すれば在宅で最期まで過ごせると思う	4	3	2	1

以下の質問について該当する箇所に○をつけてください。また、( )内はご記入ください。

- |    |   |
|----|---|
| 1. | 性別：男性・女性  |
| 2. | 年代：20歳未満・20歳代・30歳代・40歳代・50歳代・60歳代・70歳代・80歳代・90歳以上   |
| 3. | 就業について <ul style="list-style-type: none"> <li>・就業 (内容 )</li> <li>・退職</li> <li>・その他</li> </ul> |

動画を視聴しての感想をお答えください。

動画は参考になりましたか？ご自分の考えにあう1～4の数字に○をつけてください。

質問 番号	質問項目	とても参考 になった	まあ参考 になった	あまり参考 になかった	全く参考 になかった
問1	市民が訪問看護師に聞く	4	3	2	1
問2	市民が医師に聞く	4	3	2	1
問3	市民がケアマネジャーに聞く	4	3	2	1

問4. あなたの今のお考えをお答えください。

あなたの地域（市・区・町・村）では、希望した人は、息をひきとるまで自宅で  
過ごせると思いませんか？ 当てはまる番号に1つ○をつけてください。

<p>1. 多くの人が過ごせると思う</p> <p>2. だいたいの人が過ごせると思う</p> <p>3. あまり過ごせる人はいないと思う</p> <p>4. 全く過ごせる人はいないと思う</p>
--

\* 人生の最終段階（終末期と同じ意味）を在宅で過ごすことについて、今のあなたのお考えをお答えください。自分の考えにあう1～4の数字に○をつけてください。

質問 番号	質問項目	そう 思う	まあ 思う	思わ ない あまり	思わ ない
問5	わたしが人生の最終段階を在宅で過ごしたい場合に、 <b>相談する場所</b> がどこなのかわかった	4	3	2	1
問6	わたしが人生の最終段階を在宅で過ごしたい場合の、 <b>医師</b> の役割がわかった	4	3	2	1
問7	わたしが人生の最終段階を在宅で過ごしたい場合の、 <b>訪問看護師</b> の役割がわかった	4	3	2	1

質問番号	質問項目	そう思う	まあ思う	思わない あまり	思わない
問 8	わたしが人生の最終段階を在宅で過ごしたい場合の、 <b>ケアマネジャー</b> の役割がわかった	4	3	2	1
問 9	在宅で看取りをする場合の <b>経過</b> がわかった	4	3	2	1
問 10	在宅で看取りをする場合の <b>法的ルール</b> がわかった	4	3	2	1
問 11	わたしは、自分の人生の最終段階の過ごし方や医療について <b>考え</b> ようと思う	4	3	2	1
問 12	わたしが人生の最終段階になった時に受けた <b>医療</b> については、 <b>事前指示書</b> に書いておきたいと思う	4	3	2	1
問 13	わたしが人生の最終段階になった時にどこで過ごしたいかについて、 <b>家族</b> に希望を伝えたいと思う	4	3	2	1
問 14	わたしが人生の最終段階になった時にどこで過ごしたいかについて、 <b>医療者</b> に希望を伝えたいと思う	4	3	2	1
問 15	わたしは人生の最終段階になっても、 <b>今住んでいる市町村</b> 内で過ごしたいと思う	4	3	2	1
問 16	わたしは人生の最終段階になっても <b>自宅</b> で過ごしたいと思う	4	3	2	1
問 17	わたしは人生の最終段階になっても自宅で過ごすときに、 <b>訪問診療</b> を使いたいと思う	4	3	2	1
問 18	わたしは人生の最終段階になっても自宅で過ごすときに、 <b>訪問看護</b> を使いたいと思う	4	3	2	1
問 19	在宅での看取りは <b>家族にとってもよい体験</b> になる	4	3	2	1
問 20	<b>家族の負担</b> が増える理由から、わたしは在宅での看取りは希望しない	4	3	2	1
問 21	<b>一人暮らし</b> でも、わたしが希望すれば在宅で最期まで過ごせると思う	4	3	2	1

以下の質問について該当する箇所には○をつけてください。また、( )内はご記入ください。

1.	性別：男性・女性
2.	年代：20歳未満・20歳代・30歳代・40歳代・50歳代・60歳代・70歳代・80歳代・90歳以上
3.	就業について ・就業 (内容 ) ・退職 ・その他

#### 4. 2020 年度に予定していた市民講座の状況報告

「在宅療養・看取りを啓発」を目的とする公開講座プログラムの展開を 2020 年には関東圏内 2 か所で開催予定であった。しかし、2019 年時点で開催候補地の関係者と事前打ち合わせを開始した時点で全てを延期せざるを得ない状況が生じたために開催を 1 年延期することとした。2021 年度中に講座開催を予定していた候補地 2 か所において、2021 年度前期に候補地の担当者と調整に入る予定である。同時に、COVID-19 感染が未だ収束を見ない中であるため、プログラム展開の方法は当初計画していた方法に工夫をする必要があると考えている。例えば、飛沫拡散防止のために LIVE での市民と専門職者のやり取りに替えて 2020 年度に作成した動画を活用していくなどの工夫を検討している。いずれにしても、関東圏（千葉県、茨城県）の候補地の協力者とは継続的に情報共有をしている。

本来であれば、2021 年度にプログラム展開を計画していた関西圏の開催地検討・事前調査を 2020 年度に予定していたが、1 年の延期をせざるを得ない状況から、2021 年度に COVID-19 の感染状況をみながら開催地域事前調査などを行うこととなる。

## 5. 2020 年度の学会活動

第 25 回日本在宅ケア学会において市民公開講座(最期まで安心して在宅で過ごすために)を企画し採択となったが、COVID-19 の影響を受けて市民との対面での市民講座開催は中止となったために抄録掲載となった。 また、同学術集会で 2 本の抄録採択となったが、学術集会がオンライン形式となったために抄録掲載となった。

第 46 回日本看護研究学会学術集会においては、本研究チームの 2 名がシンポジウムへの招聘を受け、「自分らしく生き抜くを支える:あなたの願いと意思を叶えるために(スーディ)」と「がんと共に生きる当事者が望むくらしを支える (竹生)」の演題で、本研究に軸足を据えた視点からプレゼンテーションを行った。

2021 年 4 月末時点において、第 26 回日本在宅ケア学会学術集会に 1 本の交流集会企画と研究抄録 1 本を提出する予定である。

## 6. 2021年度の計画と展望

COVID-19 感染の収束を期待しつつも、「感染状況に変化がなくとも本来の目的を見据えて、出来ることを実行していく」の姿勢で調査研究や啓発活動を進める予定である。

①まず、国内 200 か所の小規模自治体への DVD 発送と配布に伴い依頼するアンケートによる動画評価結果の回収を行う。回収された評価アンケートから内容分析を開始する。配布の1段目は北海道内 124 か所、続いて北海道外 76 か所への配布を予定している。

②研究会 HP 上に DVD 貸出システムを構築し、それに伴うガイドラインを作成する。出来るだけ多くの一般の人たち、異分野の専門家、配布先以外の自治体や専門職者の人たちの活用を期待して「遠隔だけどクリック一つで行けるライブラリー（仮称）」を整える。

③やむなく延期している関東圏 2 か所におけるのプログラム展開を実施する。2021 年度 4 月末にはこれらの 2 か所の協力者と実施に向けて検討会議を開始する予定である。参加人数制限や感染予防対策などの工夫や環境整備は必要であるが、実施可能であると考えている。

④関西圏（COVID-19 感染状況によっては関西圏以外での開催も検討）又は九州圏での開催も視野に入れて柔軟な姿勢で事前調査に向けて検討する。

得られた知見は速やかに HP や公的な発表の場で開示しつつ、論拠をもって「ひとりでも多くの人が、望むのであれば独り暮らしでも認知症状があっても在宅で最期まで暮らせる方策の構築」に向けて研究調査、並びに啓発活動を継続する方針である。

## 7. 謝辞

2020年度は、(私事で恐縮ですが)亡母の口癖だった「越えられなければ、這って潜れ」という言葉の思い出すことが多かった年でした。迂回や想定外の遠回りをしつつも2020年の研究・啓発活動を終えることが出来ました。最終的には本来の計画から約8か月の遅れは生じましたが、遅れを8か月に留められたといった方が良いと考えています。これらは全て、多くの人たちのご支援の手が添えられていたからこそ可能になりました。

COVID-19による感染対応でご多忙を極めている中でも、躊躇なく撮影参加に応じて下さったそよ風の吉崎先生(一度も手元のシナリオ原稿を見ることもなく、完璧な演者でした。実際に療養者さん宅で療養者さんやご家族の質問に答えている様子と重なりました)、訪問看護事業所の亀田谷所長さんも日々向き合っておられる療養者さんやご家族に説明している感じで、真面目なお人柄が画像を通して伝わってきました。

動画に出演して下さった夕張市民(本間さん、菅原さん、白石さん、源藤さん、及川さんの5名の皆様と後方支援をして下さった矢口さん)がご協力して下さったからこそ動画を完成させられました。既にYouTubeでの限定公開を視聴した方たちから、「一般の人たちが常に疑問に思っていることが自然体で質問されていた」「市民役の方々が常日頃感じている質問を専門家に問うているのだなあ」「演じているというより、素直に疑問を投げかけている感じで共感できる」などの声が寄せられています。

撮影を担当して下さったMURMURの阿部さんは単なる仕事としてではなく、真摯に研究者らの意図を汲んでくださり、演者の方々への、特に市民協力者であるシニアの皆様へのご配慮はあたたかいものでした。テロップ編集においても、視聴する人の立場を考えて繰り返し修正をして下さいました。

後方支援を惜しまなかった札幌市立大学デザイン学部の福田大年先生がご自分のネットワークを紹介くださったおかげで研究者らにとっては新しい試みも円滑に企画を進行できました。また、研究者らの会議や試写会にも参加し、貴重な意見をくださいました。YouTube初掲載においても指南をして頂きました。ベストナース誌の小山さんは研究者らの活動を記事として紹介して下さり、それがきっかけで問い合わせを下さった読者もおられました。札幌での試写会の意見交換にも参加して下さり、メディアの視点からの建設的な意見を頂きました。

研究者らの意図を理解して手を添えて下さった皆様、私たちが気づいていないところで応援をして下さった方々に膝を折って感謝申し上げます。

「論拠に基づいた在宅療養・看取りの啓発活動を可能にするための調査研究」を今後も継続することで感謝をお示したいと、研究者一同、思っています。

2021年度末日  
研究者代表：スーディ神崎和代

## 8. 祈りの頁

この頁は市民協力者として動画に出演して下さった菅原さんのために設けました。動画では在宅医療に携わる吉崎先生への質問者役を担当してくださいました。DVDを見ても私が初めてお会いした10年前と変わらない力強い声でお話になっています。菅原さんは長年、福祉・介護の仕事に携わってこられ、消防活動などでも地域に大きく貢献してこられました。今回の動画制作への協力依頼もいつもの笑顔で承諾してくださいました。

菅原さんは2020年初秋に体調を崩されて、今は療養中です。現在は基本的には夕張のご自宅で療養しておられます。治療が必要な時だけ入院をする形で頑張っておられます。夕張での動画試写会には遠隔で参加して下さり、菅原さんの笑顔と元気なお声の確認が出来ました。

私たちは「お母さんの逞しさと優しさ」を併せ持つ菅原さんは必ず回復して、お仕事にも復帰されると信じています。

この頁をお読みになった方は、菅原さんの早期回復の祈りに加わってください。

朝な、夕なにエールを送りつつ、

3 HR メンバー一同

# 資 料

**在宅療養・看取りについて  
学ぶ会**

や おと  
**わが家の音がきこえる**

**動画完成記念試写会と意見交換会**



**司会：竹生 礼子**

13:00	開会のあいさつ	スーディ K. 和代 <small>(医療創生大学教授、札幌市立大学名誉教授)</small>
13:15~	市民代表者のあいさつ	矢口 孝行
14:00~	動画上映	
14:50	意見交換 アンケート	
	閉会のあいさつ	及川 憲仁

**参加費  
無料**

**日時：令和2年11月7日（土）13:00~14:50**

**場所：夕張市沼の沢農業研修センター**（夕張市沼の沢827番地4）

**対象：一般市民・専門職の方どなたでも** \*要 事前申し込み 先着25名  
申込・問い合わせ：① 電話 TEL：57-2575（及川） ② メールアドレス：home3hr@yahoo.co.jp

- 全プログラムを通して、厚生労働省からの感染予防ガイドラインを遵守します。
- 必ずマスク着用でのご参加をお願いします。
- 受付にて、非接触型の体温計で検温をさせていただきます。

多少、ご不便をおかけしますが、皆様のご健康を第一に考えての手続きですので、ご了解ください。

**主催：北海道ホームヘルスケア研究会（3HR）**

designed by...  
札幌市立大学 アデザイン学部  
製品デザインコース  
本報監製

本活動は、【文部科学省科学研究費助成事業】の助成を受けて実施しています。ポスターの転記複写は禁じられています。

# 在宅医療推進に

## 夕張高齢者の視点

夕張市内で行われた出演者によるシナリオの読み合わせ＝1月24日



スーディ神崎和代さん

【夕張】在宅看護学の第一人者である札幌市立大名誉教授のスーディ神崎和代さんが、夕張市民が出演する在宅医療推進DVDの作成を進めている。プロの役者ではなく、過疎の「先進地」である夕張の市民が出演し、医師ら専門家に疑問をぶつける内容として、全国の地方都市に住む高齢者らに在宅医療の重要性を認識してもらいやすくする。

スーディさんは市が財政破綻した2007年、夕張の高齢者の健康調査を買って出たことから夕張とつながりを持つようになった。スーディさんによると、多くの人が「自宅で最期を迎えたい」との希望を持ち、

### 専門家作成DVDに6人出演へ



国や道も在宅医療を推進しているが、道内の在宅死亡率は9%程度で、全国下位にとどまっている。これについてスーディさんは①正しい情報が住民に届いていない②延命治療の可否など終末期の望む医療を事前に示す「医療事前指示書」など意思決定の道具がない③ことが要因とみて、これらを周知するためDVDづくりに着手。交流のある夕張市民6人の協力を得ることにした。

内容は市民が医師、訪問看護師、ケアマネジャーに在宅医療の疑問点をぶつけるシナリオ形式。例えば、市民が「在宅医療は家族に負担がかかるのでは」と質問し、訪問看護師が「お

### 札幌で来月撮影 せりふ特訓中

スーディさんは、人口1万人以下の全国の自治体にDVDを無償で配布するほか、動画投稿サイト「ユーチューブ」でも公開する予定。「多くの人に在宅医療について真剣に考えてもらうきっかけを提供したい」としている。(志村直)

全体で45分ほどに編集する。現在はスーディさんが作成したシナリオを出演者が読み合わせしている。3月8日に札幌市立大でプロのカメラマンによる撮影が行われる。源藤世栄子さん(80)は「独居老人にとって在宅医療をしてくれる先生がいるのは心強い。せりぶを覚えるのに四苦八苦しているが、頑張って撮影に臨みたい」と話す。

世話をしたいという家族の思いは負担というより愛情。ただ本人との関係性もある。状況に応じて精いっぱい療養支援が行えるよう、私たちがサポートします」などと答える。

北海道新聞

第3種郵便物認可



市民が訪問看護師にきく  
市民 本間 舞子、渡辺 千夏  
訪問看護師 亀田谷 塔穂 RN

# 在宅医療の推進 夕張市民が一役

夕張市民が出演する在宅医療推進DVDを作成したスーディさん

黒い字で「112」の番号が書か  
のドリップが武器」と及川真

【夕張】在宅ケアの普及に取り組む札幌市立大のスーディ神崎和代名誉教授が、夕張市民が出演するDVDを作成した。市民5人が医師や看護師らに在宅医療に関する疑問をぶつけ、理解を深めていく内容。小規模自治体の参考になればと、スーディさんは全国の人口1万人以下の自治体に無料配布する予定だ。（志村直）

## 専門家作成のDVDに出演

夕張市民「最期を迎える時、病院に比べ苦しくないですか？」。医師「緩和治療が自宅でも病院とほぼ同じようにできる。家族と過ごすことで、病院よりつらい気持ちや和らぐ」

DVDは約45分で、高齢の市民と医療関係者の対話などで構成されている。

スーディさんはこれまで、受けた医療などを事前に意思表示する「事前指図書」の普及などに取り組んできた。道内の在宅死亡率は全国でも下位で、「自宅で最期を迎えたい」と希望する人が多いにもかかわらず、在宅医療の正しい情報が届いていないと感じ、DVDの作成を思い立った。

医療体制が不十分な過疎地域で、どう在宅医療の必要性を理解してもらうかを考えた結果、白羽の矢を立てたのが2007年の財政破綻の際、高齢者の健康調査を買って出た経験があった夕張だった。市民に出演を依頼した。

今月7日には市内で完成試写会が行われ、30人が参加。視聴後、原業代子さん(86)は「在宅医療を自分の選択肢に加えたい」と話した。スーディさんは動画投稿サイト「YouTube」でも近く公開する予定で「多くの人に見てほしい」と呼び掛けている。

北海道新聞掲載記事

2020年11月16日

一般市民が在宅療養・看取りについて専門家に聞く

# 北海道ホームヘルスケア研究会(3HR)がDVD制作

北海道ホームヘルスケア研究会(3HR)は、DVD『在宅療養・看取りを可能にするために市民がプロに聞く』(約40分)を作成しました。



3HRのメンバーほか(中央がスーディ代表)

同研究会は、「在宅ケア研究と啓

発活動を通して、北海道の在宅ケアの促進と質の向上に貢献すること」を理念に、スーディ神崎和代氏(札幌市立大学名誉教授・現在、福島県いわき市・医療創生大学看護学部教授)を中心に、2012年7月に発足。特に在宅での看取りに焦点を当て、市民との対話を重ねながら『事前指示書』を作成するなど研究活動、情報発信を進めています。

今回のDVDは、研究会メンバーと共にトータル約3年かけて作成。「医師や訪問看護師は自宅で何をし



てくれるのか?」、「認知症になっても自宅で暮らせるのか?」、「在宅は病院と比べてお金がかかるのか?」など地域住民の知りたいことや疑問に対して、訪問看護師、訪問診療の医師、ケアマネジャーが答える形で進んでいきます。

映像では夕張市民がボランティアとして演じており、医師など医療関係者にも大いに参考となる内容にまとめられています。

今後、公的機関などに配布し、貸し出しすることなどを検討しています。

代表のスーディ氏は、「(DVDを観ることで)在宅で最期を迎えたいという方が一人でも増えれば」と話し、DVDの活用に期待しています。

在宅療養・看取りを可能にするための基盤構築  
在宅療養について学ぶ会への参加前後における意識の変化 (第 1 報)

竹生礼子<sup>1)</sup>, スーディ K. 和代<sup>2)</sup>, 鹿内あずさ<sup>3)</sup>, 川添恵理子<sup>1)</sup>,  
郡美代子<sup>4)</sup>, 齋藤千夏<sup>4)</sup>, 大村里香<sup>4)</sup>, 中山梨香子<sup>4)</sup>, 河田真理子<sup>2)</sup>

1) 北海道医療大学看護福祉学部 2) 医療創生大学看護学部 3) 北海道文教大学人間科学部 4) 3HR

【背景と目的】日本人の約 80%が在宅療養・看取りを望んでいるといわれているが、2019 年末時点で僅かな上昇を認めているものの在宅死亡率は 14%にも到達していない状況がある。研究者らは国内外の調査研究で主要因の一つは必要な情報が住民に届いていないことを明らかにしている。そこで、情報が届きにくい人口 1 万以下の自治体の住民を対象に、独自に構築した在宅療養・看取り啓発プログラム(120 分)を展開し、前後の参加者の意識変化からプログラムの効果を検証した。

【方法】2019 年に東北圏内の人口 1 万人以下(同等の高齢化率)の 2 地域(A, B)においてプログラムを展開し、受講前後で同内容の無記名アンケートを 2 回実施した。アンケート結果の単純集計と自由記載の TEXT MINING を実施したので第 1 報として報告する。プログラム構成は、シンポジウム形式による在宅療養に関わる専門職者[看護師・ケアマネジャー・医師]の立場からの情報提供、及び、在宅療養・看取りの事前意思表示方法の紹介とした(120 分)。アンケート内容：在住地域で在宅療養・看取りが可能と思うか・希望の意思表示をすれば在宅で最期を迎えられるかの意識の変化、意思表示について、自由記載で構成した。倫理的配慮：北海道医療大学看護福祉学部研究倫理委員会(承認番号：19N011008)の承認を得て実施した。

【結果】回答率：116 名(85.4%)。量的分析：両地域の受講前後比較で「居住している地域では最期まで在宅で過ごせる(A 前:18.0% 後:35.67%, B 前:44.7% 後:63.1%)」「最期まで在宅で過ごすのに必要なサービスがある(A 前:30.7% 後:52.0%, B 前:55.3% 後:60.5%)」「希望すれば在宅見取りが可能である(A 前:34.6% 後:69.9%, B 前:73.7% 後:84.2%)」等とポジティブに変化した。事前の意思表示明記については A では前後で 21.8%から 42.5%, B では 60.5%から 68.4%へ変化。質的分析：A(2130 単語)の出現頻度のトップから「在宅・医療・参考」「思う・考える・知る」B(2017 単語数)では「家族・在宅・医療」「思う、考える、出来る」であった。

【考察】両地域とも学習の機会により在宅療養・見取りが望めば可能であると考えようになり、今まで気づいていなかった(知らされていなかった)社会資源の存在を知ったことが推測された。事前の意思表示の重要性も認識されたことが明らかになった。社会資源が限られている地域での正しい情報の提供の重要性が改めて示唆された。A と B における意識変化の幅の違いは安定した在宅医師と訪問看護師数と地理的要因が推測された。質的分析では、考える機会になり、参考になる情報が多くあったことが示唆された。考える中で家族の思いや在宅療養の実像を想像する好機となると捉えていた。

【結論】①小規模自治体での在宅療養・看取りについての情報提供は重要であり、今後家族や医療者と話合う・考える好機となる。②漠然と感じていた事前意思表示の重要性を学修により認識し、具体的なツールを知ることで実際に書いてみるという行動につながる。③同規模の自治体であっても、安定した在宅医療者の存在と地理的環境により意識に差異が生じる可能性がある。

第 25 回 日本在宅ケア学会学術集会

市民公開講座 II

最期まで安心して在宅で暮らすために：医療事前指示書

講師：スーディ K. 和代

医療創生大学（札幌市立大学）

ファシリテーター

竹生礼子, 鹿内あずさ, 川添恵理子

人生最期の時まで自分らしく生きるために、そして、自分らしい人生の終焉を迎えるためにどんな準備をしておいたらよいかを【医療事前指示書】についての学びを通して考えてみませんか。

【医療事前指示書（アドバンスダイレクティブ）】とは、重症疾患などのために図らずも意思決定能力が失われた場合に備えて、終末期においてどのような医療やケアを希望するのか、または拒否するのかを元気な時から考えて表明しておくことを指します。

多くの日本人は諸外国の人々と同様に、可能であれば終末期を在宅で過ごしたいと願っていることは多くの先行研究が示しています。しかし、日本ではその希望を叶えているひとの割合は僅かで 14% 以下です。その理由の一つは自身の意思表示が明確に示されていない、あるいは意思や願いを周囲の人たちに確実に伝えきれていないことにあります。その原因として、「医療事前指示書について学ぶ機会がない」「意思を表明する適切な様式がない」が、筆者らの地域住民や専門職者を対象とした複数の研究調査で示されました。

医療事前指示書先進国の米国では、1960 年代後半にある弁護士が救命を目的とした医療技術が目覚ましい発展を遂げる中で、誰の眼にも不必要な延命と思われる治療が積極的に施される状況や必要以上の苦痛を伴う侵襲的な医療処置が行われる現実に疑問を持ち【アドバンスダイレクティブ（筆者は医療事前指示書と邦訳をしました）】を提案したことから、発展をしてきました。その後、米国では医療事前指示書の法制化が実現しました。

日本では、多く場合、本人による意思決定が困難な終末期や突然の死に直面した時には、家族が決断をすることになり、家族は医師の判断に委ねるケースが多いのが現状です。例えば、胃ろう\*を終末期の人に造設をするか否かの決断が家族に委ねられた場合、本人の意思が判らない状況では「諾否にかかわらず、どのような決断をしても不安と迷い」は残るのが通常です。本人に代わって決断をせざるを得ない家族の負担感と責任感は軽くはないでしょう。

本講座で医療事前指示書のサンプルを参考にしながら、[自分の意思を書面で伝える手法]について共に学び、[書く練習]をする機会も設けています。

\*胃ろう：口からの栄養（食物）摂ることが困難になった場合に、術的にチューブを胃に直接挿入して、チューブから栄養を摂る方法のことです。

第25回 日本在宅ケア学会学術集会 市民公開講座

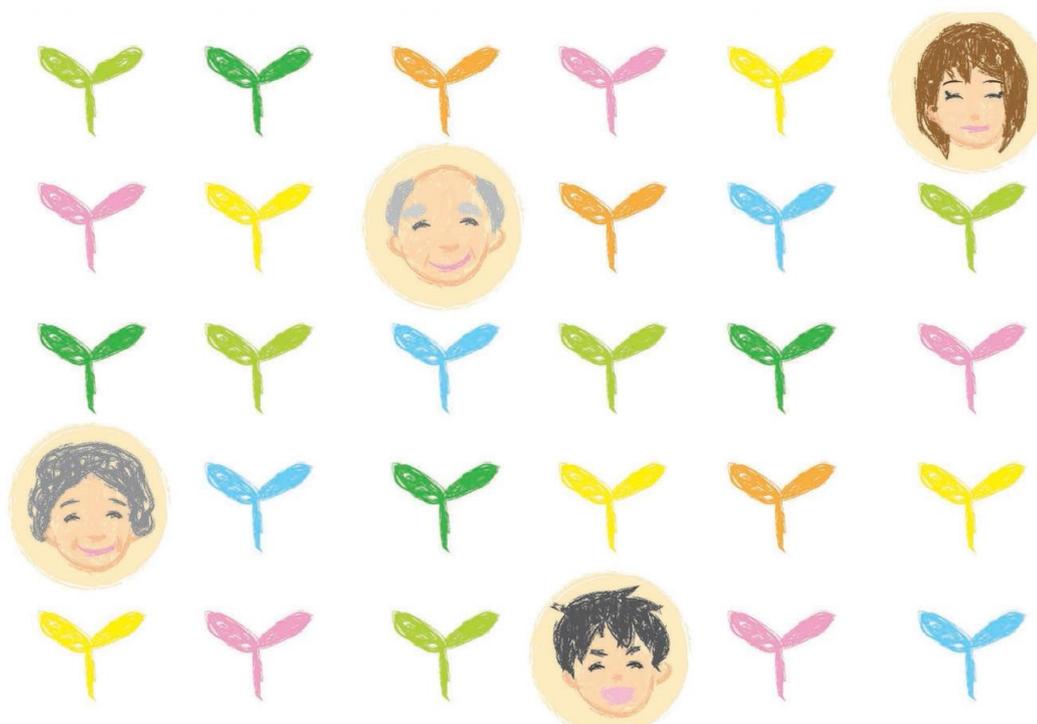
## 最期まで安心して在宅で暮らすために

人生最期の時まで自分らしく生きるために、そして、自分らしい人生の終焉を迎えるために、どんな準備をしておいたらよいのか・・・

「事前指示書」を通してみんなで考えてみませんか？

# 事前指示書

「事前指示書」とは、重症疾患などによって意思決定能力が失われた時に、どのような医療などを希望するか、または拒否するかを元気な時から表明しておくことを指します。



日時 : 2020年 6月27日 (土) 15:20-16:50

会場 : 高知市文化プラザ かるぽーと

(高知市九反田2-1)

とさでん はりまや橋 下車徒歩約5分

講師 : スーディK.和代

ファシリテーター : 竹生礼子

鹿内あずさ 川添恵理子

座長 : 井口久美

参加料 : 無料

定員 : 150名

(先着順)

問い合わせ:  
学術集会事務局

高知県立大学看護学部

高知市池2751-1

FAX: 088-847-8810

E-Mail: jahc25@cc.u-kochi.ac.jp

ポスターデザイン: 札幌市立大学 音井ひとみ・能田寛子  
コンセプト: 双葉で、事前指示書を整えて新たな生き方をするを表し、  
多くの色を用いることで、人それぞれの生き方があることを表現しました。

copyright: 3HR 無断使用禁

資料 6 記録写真

＜在宅療養・看取りを可能にするために～市民がプロにきく～＞  
DVD 完成までの過程

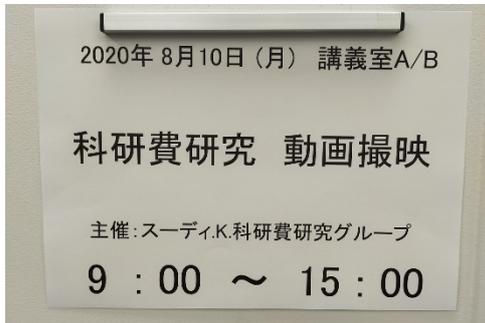


完成 DVD



動画撮影リハーサル  
札幌市立大学大講義室にて  
2020年2月1日

## ～撮影当日の COVID-19 感染予防対策～



動画撮影会場案内掲示



撮影前の問診・検温と消毒グッズの完備



パーテーションの設置



マスクの着用とソーシャルディスタンス

シナリオの読み合わせと最終打ち合わせ場面

～動画ができるまで～



撮影器具：照明・カメラ・音響関係  
株式会社 murmur 阿部ディレクター（左）



撮影器具のセッティング場面



カメラ・音響テスト



セッティング後の撮影現場



シナリオ掲示担当：鹿内・川添



夕張市民の及川氏・菅原氏と吉崎医師



夕張市民の白石氏・源藤氏とケアマネジャーの竹生

## You Tube 動画配信のスクリーンショット





夕張市民の本間氏



中山が撮影のために育てた観葉植物



ピンマイク装着場面



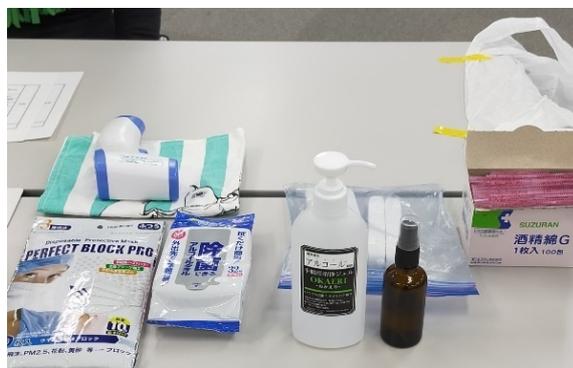
動画編集場面

## ＜動画完成記念試写会・意見交換会＞

～COVID-19 感染予防対策～



問診時のパーテーション設置



感染予防対策用品

夕張市試写会：2020年11月7日



開会の挨拶：スーディ代表



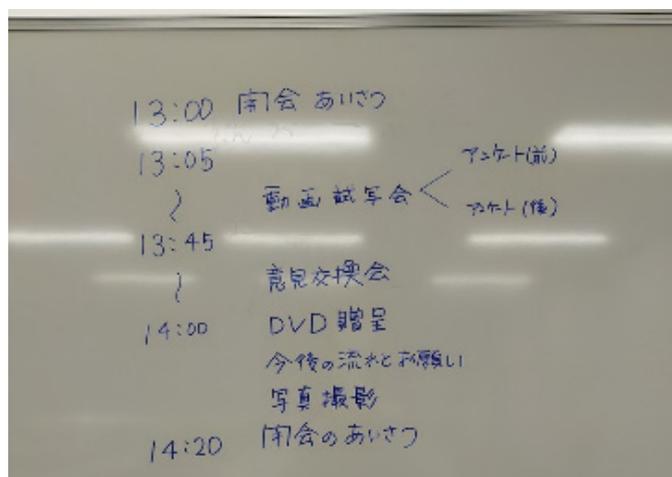


試写会風景



閉会の挨拶：及川憲仁氏

## 札幌市試写会：2020年12月19日



A whiteboard with handwritten Japanese text detailing the schedule for a screening event. The text is as follows:

13:00	開会あいさつ	
13:05	動画試写会	アンケート(前)
		アンケート(後)
13:45	意見交換会	
14:00	DVD贈呈	
	今後の流れとお願い	
	写真撮影	
14:20	閉会のあいさつ	

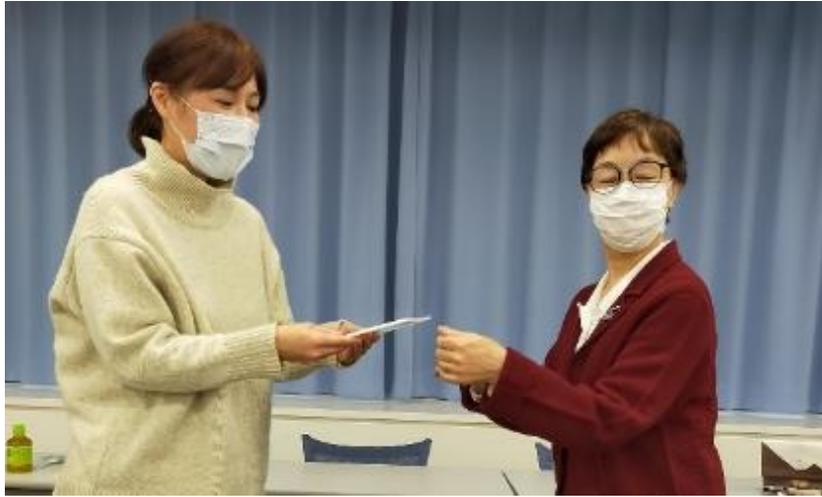
タイムテーブル



開会の挨拶：スーディ代表



支援者の福田氏へスーディ代表よりDVD贈呈



訪問看護師の亀田谷氏へ竹生より DVD 贈呈



試写会記念撮影（札幌市） 前列右：福田氏

2020 年度 報告書

在宅死を可能にする基盤づくりの発展研究

ー在宅ケア促進プログラムの展開と検証ー

わが家の音がきこえる

(2018～2021 年度学術研究助成基金助成金)

スーディ 神崎 和代 / 竹生 礼子 / 鹿内 あずさ / 川添 恵理子  
斉藤 千夏 / 中山 梨香子 / 郡 美代子 / 大村 里香 / 河田 真理子

---

2021 年 3 月 31 日

発 行：北海道ホームヘルスケア研究会 (3HR)

スーディ 神崎 和代 / 竹生 礼子 / 鹿内 あずさ / 川添 恵理子  
斉藤 千夏 / 中山 梨香子 / 郡 美代子 / 大村 里香

事務局：〒061-1449 恵庭市黄金中央 5 丁目 196-1

北海道文教大学 人間科学部 看護学科

TEL & FAX 0123-29-8019

e-mail: home3hr@yahoo.co.jp

<http://home3hr.com/>

印 刷：石田製本株式会社

\* 無断転載を禁じます。





北海道から全国へ 在宅ケアを考える 3HR Hokkaido Home Healthcare

北海道ホームヘルスケア研究会